

七条中学校の近くに競馬場があった？

島原競馬場と七条地域の歴史

これまで学校周辺の歴史として、弥生時代や平安時代の遺跡について紹介してきましたが、この地域にはもっと新しい時代の歴史も残されています。

実は、今から約120年前、現在の七条中学校周辺には「島原競馬場」と呼ばれる競馬場がありました。現在、京都の競馬場といえば淀にある京都競馬場を思い浮かべる人が多いでしょう。しかし、その前身となる競馬場が、七条地域に存在していたのです。

島原競馬場は明治40年（1907年）、現在の島原の西側一帯に建設されました。競馬場は北が五条通付近、南が北小路通付近、東が現在の京都リサーチパーク付近、西が御前通付近に広がる大規模な施設でした。七条中学校もその範囲の近くに位置しています。

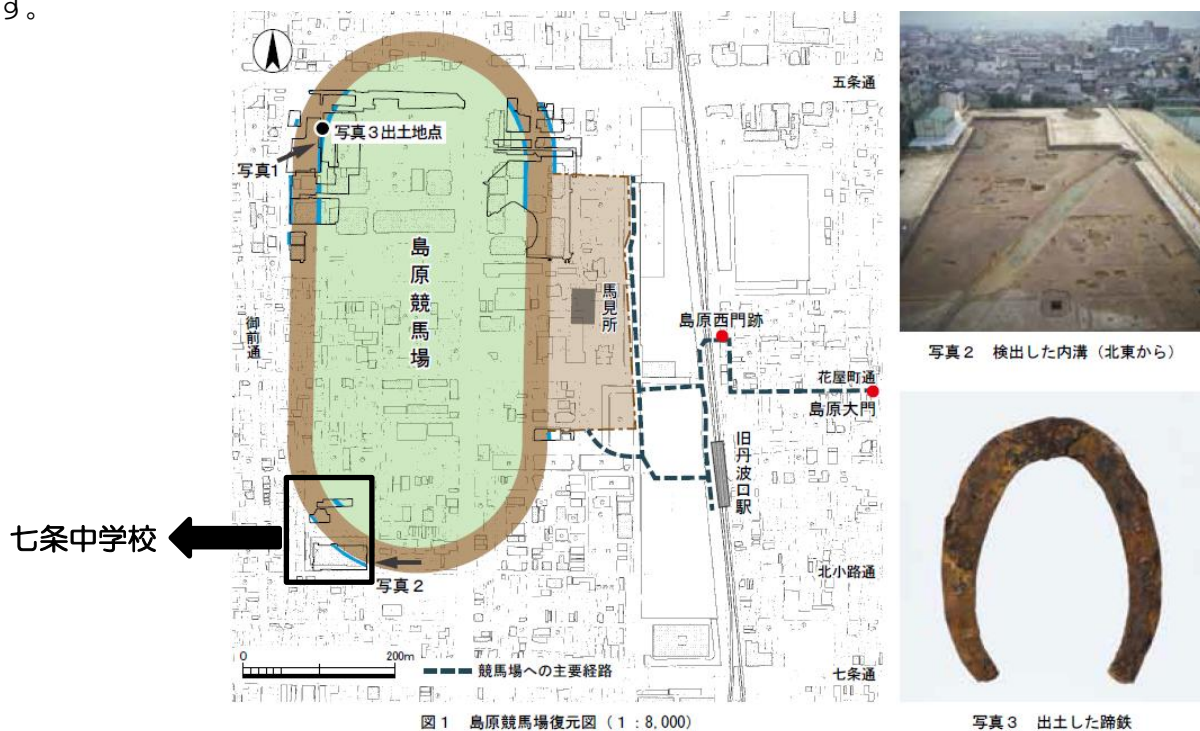
この競馬場の存在が改めて注目されたのは、1987年から行われた京都リサーチパーク建設に伴う発掘調査でした。調査では幅5メートルを超える大きな溝が見つかり、七条中学校周辺の発掘調査でも同じような溝が発見されていました。研究の結果、これらの溝は競馬場の馬場の内側と外側を囲む排水用の溝であったことが分かりました。

さらに、その溝の中からは実際に競走馬が身に付けていた「蹄鉄（ていてつ）」も出土しました。出土した蹄鉄は現在の競走馬のものより一回り小さく、当時の競走馬が現在より小型だったことも分かっています。

競馬開催の日には、近畿地方だけでなく各地から多くの人々が集まり、大変な賑わいを見せたと記録されています。しかし、馬券の発売が禁止されたことによる人気の低下や火災による施設の焼失などが重なり、競馬場は大正2年（1913年）に現在の京丹波町方面へ移転しました。その後、大正14年（1925年）に現在の淀へ移り、今日の京都競馬場へとつながっています。

このように七条地域には、弥生時代の人々の暮らし、平安京の西市を支えた人々の営み、そして近代の競馬場まで、時代ごとの様々な歴史が刻まれています。皆さんが毎日通学し、学んでいるこの地域には、教科書には載っていない貴重な歴史が数多く眠っています。

70周年という節目に、自分たちの学校や地域の歴史に目を向けてみてください。普段見慣れた景色も、「昔はここに競馬場があったのか」「平安時代には市場で働く人々が暮らしていたのか」と考えると、少し違って見えてくるかもしれません。七条という地域の長い歴史を知り、その魅力や価値に誇りをもってほしいと思います。



七条中学校
現在の校舎
建設前
中央に溝が
あるのが分
かりますか？

裏へ

困難に直面した時の5つのヒント

合唱の部や体育の部に向けた取組が始まっていますが、目標に向けての進行具合はどうですか？仲間とともに目標に向かって努力する中で、思うようにいかないことにぶつかることがあるでしょう。「なかなか声がそろわない」「クラスの気持ちが一つにならない」「記録が伸びない」「練習がつらい」など、困難の形は人それぞれです。しかし、困難のない成長はありません。むしろ、大きく成長する前には必ずと言ってよいほど困難が現れます。では、困難に直面したとき、私たちはどうすればよいのでしょうか。そのヒントを紹介します。

① まず立ち止まって現状を整理する

困難に出会うと焦りや不安で頭がいっぱいになります。しかし、慌てて行動しても解決しないことが多いものです。まずは自分に問いかけてみましょう。●何に困っているのか●何が原因なのか●自分でできることは何か 問題を整理すると、意外に解決の糸口が見えてきます。

② 一人で抱え込まない

困難を乗り越えた人たちに共通していることは、周りの力を借りていることです。

●仲間に相談する●先生にアドバイスをもらう●家族に話を聞いてもらう

助けを求めることは弱さではありません。困難を乗り越えるための大切な力です。

③ 「できないこと」ではなく「できること」に目を向ける

困難な時ほど、人はできないことばかり考えてしまいます。

例えば合唱なら、「高音が出ない」ではなく「毎日10分発声練習を続けられる」

体育なら、「足が遅い」ではなく「スタートの練習ならできる」今できることを積み重ねることが大切です。

④ 失敗を成長の材料にする

失敗しない人はいません。大切なのは、「なぜ失敗したのか」「次はどうするのか」を考えることです。

失敗は終わりではなく、次の成功へのヒントです。

⑤ あきらめずに続ける

多くの困難は、一度や二度の挑戦で解決しません。

成果が見えなくても続けていると、ある時大きく成長している自分に気づきます。

「継続は力なり」という言葉は、まさに困難を乗り越えるための言葉です。

これから合唱の部や体育の部に向けて、さらになる困難が現れるかもしれません。しかし、その一つ一つが皆さんを成長させる大切な機会でもあります。どうか失敗を恐れず、仲間と支え合いながら挑戦を続けてください。そして本番の日には、結果だけではなく、「最後までやり抜いた」という誇りと達成感を味わってほしいと思います。「困難は、皆さんの前に立ちただかる壁ではありません。皆さんを一段高い場所へ導く階段です。」七条中学校の皆さん一人一人が、この秋の挑戦を通して大きく成長してくれることを期待しています。

定期テスト2の振り返りから

定期テスト2の終了後、皆さんにFormsで学習の振り返りを募集したところ、多くの回答が寄せられました。ありがとうございました。皆さんの回答を読んでいると、「教科書を読み返しながらかしシートで復習した」「対策プリントをしっかりと取り組んだ」「毎日テスト勉強を続けた」「全力で勉強したことで問題がすらすら解けた」など、自分なりに工夫しながら努力した様子がよく伝わってきました。また、「第1回のテストより成長したと感じた」「勉強した甲斐があった」といった声もあり、日々の積み重ねが成果につながったことを実感している人もいました。一方で、「勉強不足だった」「もう少し勉強しておけばよかった」「もっと余裕をもって計画を立てればよかった」という反省も多く見られました。なかには、「たくさん勉強したが詰め込みすぎて疲れてしまった」という意見もありました。これは決して失敗ではありません。自分に合った学習方法や学習量を知ることも、大切な学びの一つです。

今回寄せられた意見から分かることは、学習で大切なのは「やる気」だけではなく、「計画」「継続」「振り返り」の三つだということです。結果がよかった人は、その方法を続ければよいでしょう。思うような結果にならなかった人も、今回の反省を生かせば次は必ず成長できます。プロスポーツ選手やオリンピック選手も、試合が終われば必ず振り返りを行います。うまくいったことも、うまくいかなかったことも分析し、次の挑戦に生かしています。勉強も同じです。大切なのは、一回の結果だけで自分を判断することではなく、その経験から何を学び、次へどうつなげるかです。皆さんの振り返りには、たくさんの成長の種がありました。ぜひその種を大切に育ててください。そして次の定期テストでは、今回の経験を生かし、一歩でも前進した自分を見せてくれることを期待しています。失敗は成長の材料です。振り返りは成長への第一歩です。